

# 通学合宿で料理をつきました！



H27.6.29 北仙道公民館にて

## 教育委員会だより

第2号

益田市教育委員会へ 平成27年7月17日発行

### アユをイメージした益田市「教育に関する大綱」

教育総務課長 島田 博

益田市の魚としてシンボリックな存在となったアユ。それが、益田の教育関係者にとって、さらに身近な存在となりました！

平成27年度から新たな教育委員会制度がスタートしています。中でも市長と教育委員とで構成する総合教育会議は、この新制度の象徴的なものといえるでしょう。益田市では、4月に総合教育会議を設置し、早速、「教育に関する大綱」の策定に向けて協議を重ねました。

この大綱には、既存の「益田市教育ビジョン」と「益田市社会教育推進計画」の中から、市長部局と教育委員会が連携し、早期かつ重点的に取り組むべきものを位置づけ

ました。具体的には、益田で学び育った子ども達が、将来、自信を持ってふるさとを語り、活躍することができるよう、その成長を支える教育の推進を目指し、「学力向上を

進めるための施策の推進」「教育と子育て支援の一体化」「ふるさと教育の推進」「キャリア教育・起業家教育による人材の育成」の4つの重点項目を定めています。

ここで、冒頭にふれたアユの登場です。

4つの重点項目を定めるにあたっては、清流高津川で生まれ育ったアユが成長し遡上する姿を強くイメージしています。

遡上するアユの姿に益田で学び育つ子ども達を重ね、子ども達がふるさと益田で活躍できる未来の

ために、この大綱を踏まえた教育環境を整備し、関係者が一体となって子ども達を支えていきたいと考えています。

#### ひとが育つまち 益田



★詳しくは、益田市ホームページが市の広報9月号をご覧ください。

#### 目次

表紙(学校紹介).....	1P
教育総務課長寄稿.....	1P
教育情報.....	2～3P
カラフル給食タイム.....	4P
寄付・寄贈のお礼.....	

# 「学び舎ますだ」でやる気アップ!

益田市教育委員会の事業として、平成26年度から始めた「学び舎ますだ」が今年度2年目を迎えました。この事業は、学校外の学習の場を設けることで、児童生徒の学習習慣の定着を図り、学力の向上につなげることを目的としたものです。益田市内の小学4年生と中学3年生まで124人が登録しており、現在までのところ、毎回35名程度参加しています。講師は退職校長会会員、学校教員の希望者や学校教育課指導主事です。

学び舎ますだ 学習の記録

日 時		学習内容 (計画を書きましよう)	反省 (振り返りを書きましよう)
5/16	1	国語 算数	今日は色々な先生に教えてもらった。
	2	自学	
5/30	1	国語 算数	今日は色々な先生に教えてもらった。
	2	算数	
6/13	1	国語	今日は色々な先生に教えてもらった。
	2	算数 理科	

学習の記録



学習の様子

学習会場は市民学習センターで、毎月2回程度土曜日の午前中に実施しています。子ども達は自分で勉強するための必要な用具を持参し、50分の2コマ学習に取り組めます。一人ひとりが「学習の記録」にその日の予定を記入し、終了時に振り返りをします。子ども達の学習の様子を見て、講師が声をかけることもあれば、子ども達が手を挙げて分からない箇所を聞くこともあり。どの子どもにも集中して、宿題や自主学習に取り組んでいます。

昨年度の児童生徒のアンケート結果より、「宿題ができる」「勉強が分かるようになった」「勉強のやり方が分かるようになった」と肯定的な意見があった一方、「参加しにくい時間にある」という意見もありました。この意見をもとに、今年度は、夏季休業中の土曜日ではない午後9日間実施することになりました。「学び舎ますだ」を利用して、夏休みの宿題にも積極的に取り組んでほしいです。



この事業を通して、ひとりでも多くの子ども達が自主的に学習に取り組む姿勢を身につけてくれることを願っています。

## 教育部長就任あいさつ

川原 敏之

教育委員会で勤務し始めて3カ月が過ぎました。「知らないことがこんなにたくさんあったのか」と驚きと戸惑いの毎日です。

ところで、昨年12月末に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されて以来、ひとつづくりの大切さについてあらためて全国各地で熱心な議論が交わされています。しかし、このことは地域づくりの分野では何十年も前から言われ続けてきたことでした。

「むらづくりは、ひとつづくり。ひとつづくりは自分づくり」とおっしゃった先生がいらつしやいました。が、まずは私自身が切磋琢磨しなければいけないと痛感しています。



## 高津学校給食センター(仮称)

### 学校給食調理業務事業者選定について

益田市では、平成27年度中に高津四丁目(旧競馬場跡地)に高津学校給食センター(仮称)を建設整備し、平成28年4月から市内の小中学校に学校給食の提供を開始することとしています。その

高津学校給食センター(仮称)の調理業務については、市内の事業者へ委託することとしており、公募型プロポーザルにより委託事業者を選定します。

## 2015つろうて子育てプロジェクト

### 「おもちゃインストラクター養成講座」開催!

5月30日(土)、31日(日)の2日間にわたって、「おもちゃインストラクター養成講座」を開催しました。講師には、NPO法人日本グッド・トイ委員会の岡田哲也さんをお招きしました。(日本グッド・トイ委員会については団体HPをご覧ください。)

この養成講座には、3つの目的があります。

①子どもの成長・発達にあったおもちゃ選びとその遊び方を身につけること。

②画用紙・牛乳パック・新聞紙など、身近な素材で



新聞紙のワークショップ



画用紙のワークショップ

作れるおもちゃを知り、その指導の仕方を学ぶこと。

③自分自身が遊びの楽しさを実感し、子どもとの遊びの専門家をめざすこと。

教育委員会ではつろうて子育てプロジェクトを進めています。子どもたちの体験をさらに豊かにしていくためには、大人自身が具体的に指導できるノウハウを身につけることが必要であると考えています。この講座を受講したみなさんが各地域で活躍できるようにサポートしていきたいと思えます。

## 2件の文化財が市指定文化財に指定されました

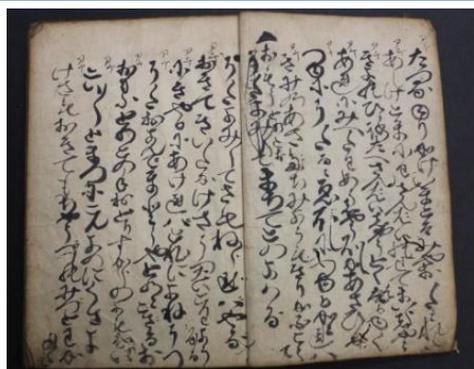
平成27年6月23日に開

催された定例教育委員会  
で、「土佐本田植哥草紙」と、  
「紙本墨画 達磨図 雲谷等  
屋筆」の市指定文化財への  
指定が議決され、正式に市  
の指定文化財になりました。

これにより市指定文化財  
は、98件となりました。

○土佐本田植哥草紙

明治8(1875)年に  
現在の美都町板井川若杉に  
在住していた土佐友蔵が書  
写した田植歌本です。同書  
は、江戸時代を中心とした



土佐本田植哥草紙



紙本墨画 達磨図  
雲谷等屋筆

中国山地石見部の田植歌を  
記録したもので、芸北地域  
(広島県北部)に伝わる「田  
植草紙」などの類書との比較  
により、中国山地の民衆文化  
研究を深めることができる  
貴重な文化財です。

これを記念して、8月3日  
から31日まで匹見上地区振  
興センターで一般公開予定  
です。

○紙本墨画 達磨図 雲谷  
等屋筆

雲谷等屋(1582?~1  
615)は、雲谷派(雪舟の  
流れをくむ、日本画の画派の  
一つ)の祖である雲谷等顔の  
長男。等屋の作品は兵庫県大  
覚寺所蔵の「達磨図」以外、  
ほとんど確認されていませ

ん。この達磨図の等屋印  
は大覚寺所蔵のものと同  
じ印が押されており、本  
図は現存する2例目の作  
品となります。雪舟を理  
解する上で貴重な関連資  
料であることから、市立  
雪舟の郷記念館が收藏し  
ています。

これら2点の文化財は  
ともに、益田市の歴史・  
文化を理解する上で非常  
に貴重な資料です。市指  
定文化財とすることで、  
貴重な資料を適切に保存  
し、益田市の歴史文化の  
研究や振興に役立ててい  
きます。

次世代に伝える故郷の誇り ～益田の「食」に託した想い～

近年食育への関心が高まり、給食が果たすべき役割の中でも、食育の重要度が増しています。それをより具現化していくうえで、栄養教諭・学校栄養職員の存在は欠かせないものとなっています。

この度吉田小学校では、栄養教諭を目指す竹本翔子さん（大学4年生）を教育実習生として受け入れましたが、実際に学校給食の献立作成を担ってもらうなど、学校給食共同調理場との連携を深めながら実習の場に役立ててもらいました。



★入念な準備で臨んだ研究授業

竹本さんが栄養教諭を志すきっかけは、「大学で益田の食べ物について訊かれたが、メロンとブドウしか答えられず、益田の事が大好きなのに何も知らないと感じた」といった事があり、「だから益田の子ども達には益田を誇りに思えるようになってほしい。そういう子どもを育てたい」という強い想いを持って日々努力している、とのことでした。

研究授業では、自ら作成した指導案が児童にきちんと伝わるか不安だったそうですが、終わった後「美味しかった」「授業で教わった野菜が入っている」といった児童の声があったことで、「伝わっている」という手応えが直に感じられたようです。

無事に教育実習を終え、竹本さんは「実習が決まってから9カ月間、試行錯誤を重ね何度も試作しながら、ようやく想いが詰まった給食を実現できた。益田の子ども達に食

★6月25日の献立  
ごはん、野菜スープ、牛乳、益田鶏のラタトゥイユ



原案作成：竹本翔子 献立指導：濱田由美子

べてもらった事が自分にとつて大きな宝物」と感激する事しきりでした。最後に「将来は栄養教諭として働き、益田の食を通じて食育を展開したい」と目を輝かせていました。次世代を担う子ども達に伝えていく事は多々ありますが、ふるさと益田に誇りを持つてほしいという想いは誰しも同じではないでしょうか。これからもその想いを日々の献立に託して、学校給食を提

寄付・寄贈のお礼

益田市奨学金へ寄付  
・乙吉町 故 島田 喜美子 様  
・市内 匿名 様

ありがとうございました。



退任A-L-Tあいらっふ  
マロン・ニコル

2年間という大変短い間でしたが、益田市に住むことが出来て恵まれていたと思います。

透き通った川、緑豊かな山、美味しい料理、優しい市民、元気な生徒：日本に来る前はここまで幸せな時間を



過ごすとは思ってもいませんでした。

まだやり残したことがある気がして、生まれ育った国に帰ることに對して複雑な気持ちです。それに、いつかまた高津川の流れている田舎の風景を見る日が来ることを信じて、次のステージに歩いていきたいと思います。



中西で見られる桜